

平戸市中野地区定置網漁業ビジネスモデル計画 【ダイジェスト版】

【策定：平戸市雇成型漁業ビジネスモデル構築推進・普及会議】

背景

平戸市において、定置網漁業は同市の一般漁業の総水揚量7,849 tの約40%(3,229t)を占める基幹産業である。標記ビジネスモデルを実践する経営体は、シイラやトビウオの水揚量が好調で、経営は安定しているが、当該漁業が「待つ漁業」であるため、魚群の回遊に水揚が左右され、好不調の波がある。よって、今後とも安定した経営を維持していくためには、販路の工夫や観光等の組み合わせによる収益性の高いビジネスモデルを確立し、実践していく必要がある。

課題



操業回数の限界

現在使用している漁船は装備面などから、3漁場で1日各2回操業が限界である。



高鮮度処理

使用している角氷は魚体に傷が付きやすく、また、魚種によっては冷やしむらが生じるなど鮮度処理が不十分。



本業と観光の両立

観光客の伸びによる収益増の期待が大きいですが、漁業繁忙期の今以上の受入れは操業に支障を与える。漁業繁忙・休閑期に合わせた観光受入体制の整備や人員確保が必要。



人員不足

不定期的な休日、近くに住宅がないなど、処遇面の改善による従業員の安定確保が必要。

取組の方向性

「水揚量の増加」「高鮮度処理による魚価の向上・販路拡大」「世界遺産候補地と連携した観光定置」等の組み合わせによる収益向上及び雇用の確保を目指す。

計画内容

作業効率の良い新船を導入

- ・ 盛漁期の操業回数を2回/日から3～4回/日に増
水揚量の増加 (317t 367t)

フレーク状アイス製氷機の導入

- ・ 高鮮度・高品質処理の徹底
魚価上昇(5%増) 重要魚種シイラをメインに

首都圏等との相対取引実施

- ・ 未利用魚(少量多種漁獲物)を高鮮度処理し首都圏等へ出荷
販路拡大・収益増(0箱(0円) 250箱(250万円))

世界遺産候補地と連携した定置網体験

- ・ 漁閑期で観光客数が多い7、8月に限定して世界遺産候補地周遊と観光定置のセット商品を企画。漁業繁忙期は受入数を漁業に支障を与えない範囲で抑制
夏場の観光客受入増による収益向上
(7、8月 490名 890名(年間1,150名 1,440名))

就労環境の改善・雇用の確保

- ・ 給与水準の向上、休日の増加、雇用の確保
(正規雇用者数 6人 7人)
で国支援事業、 ・ で県支援事業を活用予定

地域を牽引する ビジネスモデルへ

- 収益性の向上
- 安定した経営体制の確立
- 就労環境改善と雇用の確保

KPI

(重要成果指標)

○付加生産額

(営業利益・人件費・減価償却費)

○正規雇用者数

基準年(直近3年平均)
49,035 千円

6 人

H31(目標年)
58,847 千円

7 人